

# 日本産業衛生学会 近畿地方会ニュース

発行所 日本産業衛生学会近畿地方会事務局  
(事務局 藤木幸雄)  
〒571 大阪府門真市殿島町7番6号  
松下産業衛生科学センター内  
TEL 06-906-1631  
発行責任者(地方会長) 堀口俊一

## 第33回 近畿産業衛生学会

主催 日本産業衛生学会近畿地方会

後援 奈良県医師会

学会長 山下節義(奈良県立医科大学衛生学教室)

日時 1993年11月13日(土) 10:00~16:50

会場 奈良県立医科大学 臨床第1講義室(第1会場)

臨床第2講義室(第2会場)

奈良県橿原市四条町840 電話 07442-2-3051(内2244)

07442-2-3051(内2217) 学会当日用

シンポジウム

快適職場づくりと産業保健活動-実践的アプローチをめざして-

主な行事

評議員会 12時10分から13時(第1会場)

名誉会長称号授与式 13時から13時30分(第1会場)

懇親会 16時50分から18時30分 奈良県立医科大学サービス棟弘済団食堂

## 学会開催にあたって

奈良県立医科大学衛生学教室

山下節義

第33回近畿産業衛生学会は、11月13日(土)に、奈良県で開催されることになりました。会員の皆様方のご来会を心から歓迎申し上げます。

学会は、奈良県立医科大学を会場に開催します。交通の便必ずしも良好とは言い難く、いささか気掛かりですが、大和三山に囲まれた創都1300年の歴史を持つ藤原京跡のある橿原市にあります。会員各位の多数のご参加をお待ちしております。

今回は、特別企画として「快適職場づくりと産業保健活動」と題する企画をたてました。職場環境、労働態様等の変化とともに、多くの労働者が仕事に伴う疲労・ストレスを感じている昨今、「快適職場の形成」が産業現場での重要な課題となっておりますことから、かかる状

況を踏まえて、現代職場にみられる特徴的な問題点と対策について、産衛近畿地方会の新進気鋭の三人の研究者に報告して頂きます。ご期待ください。また、この度、日本医師会産業医生涯研修の単位として2単位が認定されましたことから、教育講演の要素も念頭に置いて企画しております。

なお、今回の学会は、奈良県医師会のご後援を得て開催することとなり、多大のご援助のもと、準備は順調に進められております。

最後に、実り豊かな学会になりますよう、重ねて、会員各位のご参加・ご協力をお願い致します。

## 第33回 近畿産業衛生学会プログラム

### 第1会場 (10:00~12:00)

10:00~11:00 座長 圓藤陽子 (関西医大・公衆衛生)

101 ラッカーシンナー飲用後の血清中および尿中シンナー成分物質とその代謝物の動向

○寺本敬子<sup>1)</sup> 脇谷扶美子<sup>1)</sup> 圓藤吟史<sup>1)</sup> 河合俊夫<sup>2)</sup>  
矢部充英<sup>3)</sup> 西 真一<sup>3)</sup> 野村哲也<sup>3)</sup> 藤森 貢<sup>3)</sup>  
堀口俊一<sup>2)</sup>

(<sup>1</sup>大阪市大・医・環境衛生 <sup>2</sup>中災防・大阪センター  
<sup>3</sup>大阪市大・医・麻酔集中治療医学)

102 混合溶剤暴露労働者における健康影響と代謝修飾について

○鶴飼博彦<sup>1,3)</sup> 高田志郎<sup>1)</sup> 田中健一<sup>1)</sup> 乾 修然<sup>1)</sup>  
河合俊夫<sup>2)</sup> 今井美子<sup>3)</sup> 新保慎一郎<sup>4)</sup> 池田正之<sup>3)</sup>

(<sup>1</sup>京都工場保健会 <sup>2</sup>中災防・大阪センター  
<sup>3</sup>京大・医・公衆衛生 <sup>4</sup>京都女子大)

103 メタクリル酸メチル捕集の拡散型サンプラーについて

○河合俊夫<sup>1)</sup> 水沼一典<sup>1,2)</sup> 八杉友次郎<sup>1,2)</sup> 堀口俊一<sup>1)</sup>  
池田正之<sup>2)</sup>

(<sup>1</sup>中災防・大阪センター <sup>2</sup>京大・医・公衆衛生)

104 メタクリル酸メチル暴露に伴う尿中メタノールの排泄

○池田正之<sup>1)</sup> 水沼一典<sup>1,2)</sup> 河合俊夫<sup>1,2)</sup>  
八杉友次郎<sup>1,2)</sup> 堀口俊一<sup>2)</sup> 武田真太郎<sup>3)</sup>  
宮下和久<sup>3)</sup> 谷内俊文<sup>3)</sup> 文 燦錫<sup>1)</sup>

(<sup>1</sup>京大・医・公衆衛生 <sup>2</sup>中災防・大阪センター  
<sup>3</sup>和歌山医大・衛生)

105 前夜の飲酒が有機溶剤の代謝に与える影響について

○阪口ゆかり 柴田眞次 村田和弘 植西忠信  
(近畿健康管理センター)

11:00~12:00 座長 米増國雄 (奈良医大・公衆衛生)

106 鉛暴露指標としてのFEPの再評価 (その5)

○品川興造 (大阪市大・医・環境衛生)

107 鉛暴露作業における尿中アルブミン排泄の測定

○小西謙次<sup>1)</sup> 圓藤吟史<sup>1)</sup> 清田敦彦<sup>1)</sup> 堀口俊一<sup>2)</sup>

(<sup>1</sup>大阪市大・医・環境衛生 <sup>2</sup>中災防・大阪センター)

108 血漿鉛の測定法に関する研究

○平田 衛 吉田俊明 小坂 博

(大阪府立公衛研・労働衛生)

109 飲酒行動の遺伝的制御因子とその身体的健康度への影響 (第5報)

—簡便なPCR-RFLP法によるALDH2遺伝子型の検出法の開発—

○竹下達也 森本兼囊 (阪大・医・環境衛生)

110 ライフスタイル環境要因の遺伝的影響評価 (第1報)

—有害化学物質によるヒトリンパ球小核誘発の動特性—

○牟礼佳苗 竹下達也 森本兼囊 (阪大・医・環境衛生)

### 第2会場 (10:00~12:00)

10:00~11:00 座長 河野公一 (大阪医大・衛生公衆衛生)

201 教職員のドック・総合健診後の受診行動と現況

○三浦康代<sup>1)</sup> 山下節義<sup>2)</sup>

(<sup>1</sup>公立学校共済組合奈良支部 <sup>2</sup>奈良医大)

202 ドック受検者にみる疾病 (異常) 分布

○稲田雅美 関根健二 岩田弘滋 永田宣子

(京都通信病院)

203 K事業所における運動機能チェックの運動習慣への影響

○橋爪芳子 奥野和代 上田美代子 小笠原正弘

糸井重幸,

(近畿健康管理センター)

204 冷凍倉庫作業と血圧変動

○宮下和久<sup>1)</sup> 羅 維之<sup>1)</sup> 谷内俊文<sup>1)</sup> 宮本邦彦<sup>1)</sup>

松本政信<sup>1)</sup> 武田真太郎<sup>1)</sup> 有本幹雄<sup>2)</sup>

(<sup>1</sup>和歌山医大・衛生 <sup>2</sup>同・循環器内科)

205 某鉛亜鉛精錬所における二つの試験紙法による検尿比較

○菰池義彦<sup>1)</sup> 堀口俊一<sup>2)</sup>

(<sup>1</sup>住友病院・産衛研 <sup>2</sup>中災防・大阪センター)

11:00~12:00 座長 小泉直子 (兵庫医大・公衆衛生)

206 尿の抗変異原作用と個人差について

○中村清一<sup>1)</sup> 山本信弘<sup>2)</sup> 小坂 博<sup>1)</sup>

(<sup>1</sup>大阪府立公衛研 <sup>2</sup>大阪教育大)

207 溶接工にみられた急性ホスゲン中毒と考えられる症例

○中田 実 (淀川勤労者厚生協会・社医研)

208 慢性腎不全患者における血清中非素濃度について

○白田 寛<sup>1)</sup> 河野 公一<sup>1)</sup> 渡辺美鈴<sup>1)</sup> 谷岡 穰<sup>1)</sup>

織田行雄<sup>1)</sup> 土手友太郎<sup>1)</sup> 高橋由香<sup>1)</sup> 吉田康久<sup>1)</sup>

谷村義久<sup>2)</sup> 田川輝璋<sup>3)</sup>

(<sup>1</sup>大阪医大・衛生公衆衛生 <sup>2</sup>高槻病院内科

<sup>3</sup>枚方市民病院外科)

209 フッ化水素酸火傷における

グルコン酸カルシウム治療について

○河野公一<sup>1)</sup> 吉田康久<sup>1)</sup> 渡辺美鈴<sup>1)</sup> 谷岡 穰<sup>1)</sup>

織田行雄<sup>1)</sup> 土手友太郎<sup>1)</sup> 高橋由香<sup>1)</sup> 白田 寛<sup>1)</sup>

炭 美子<sup>1)</sup> 長家秀博<sup>1)</sup> 土居一英<sup>2)</sup>

(<sup>1</sup>大阪医大・衛生公衆衛生 <sup>2</sup>松下電産・健康管理)

210 デジタイザーを用いたFV波形解析システムによるフローボリューム曲線の解析

○目黒忠道 小川 博 (近畿大・医・衛生)

#### 1. 参加の手引き

- 1) 受付開始時間は午前9時30分からです。
- 2) 受付は、臨床講義室前ロビーです。
- 3) 大学病院玄関口からの入場経路は複雑です。大学本部正門からおはいりください。
- 4) 駐車場はありません。車でお越しはご遠慮ください。
- 5) 参加費は、会員は無料です。会員外の方は当日会費1,000円をお納めください。
- 6) 懇親会の会費は2,000円です、当日受付でお申し込みください。
- 7) 地方会費 (年額2,000円) 未納の方は、近畿地方会事務局受付でお納めください。

#### 2. 演者の方へ

- 1) 口演時間は7分、質疑時間は5分です。時間を厳守してください。スライド等は使用できません。
- 2) 学会誌「産業医学」掲載用の抄録を800字前後にまとめて、当日受付にご提出ください。
- 3) 配布資料を用いる場合は、150部程度ご用意ください。

第1会場 (12:10~15:45)

12:10~13:00 評議員会  
 13:00~13:30 近畿地方会会長挨拶並びに名誉会長称号授与式  
 13:30~15:45 シンポジウム

「快適職場づくりと産業保健活動  
 -実践的アプローチをめざして-」

座長 山下節義 (奈良医大・衛生)

- 講演Ⅰ 「職場の変化と快適職場指針」  
 近藤雄二 (天理大学・健康管理)
- 講演Ⅱ 「職場における筋骨格系障害の経験から」  
 車谷典男 (奈良医大・公衆衛生)
- 講演Ⅲ 「職場におけるストレスと職場不適応症の臨床経験から」  
 夏目 誠 (大阪府立公衛研・精神衛生部)

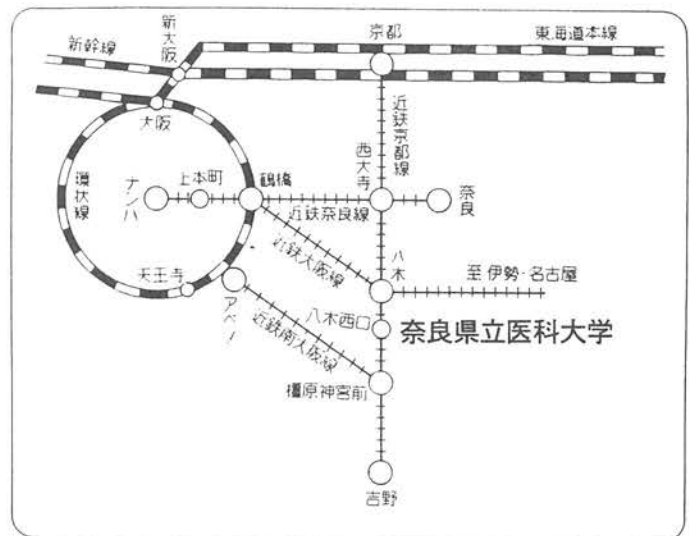
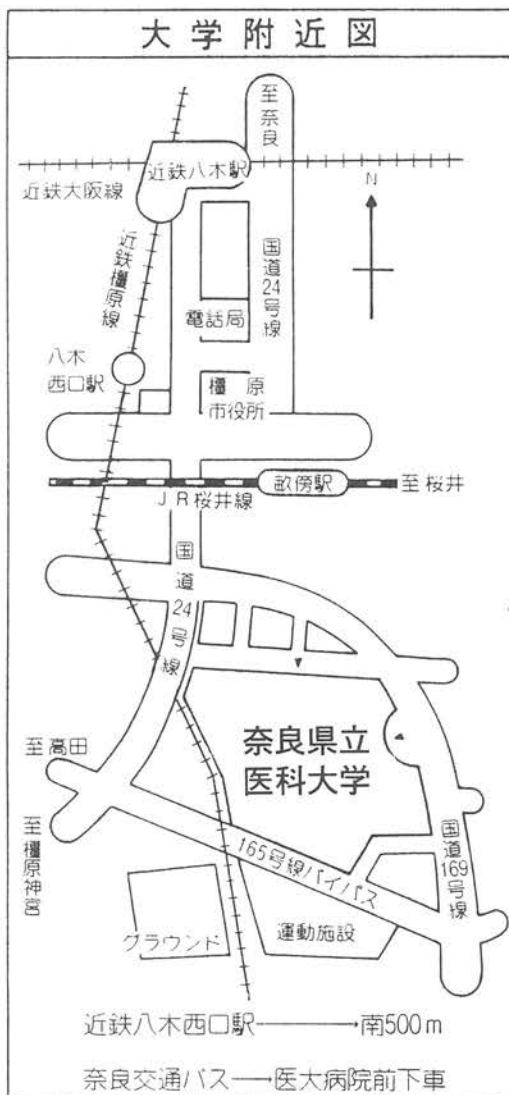
第1会場 (15:50~16:40)

- 15:50~16:40 座長 宮下和久 (和歌山医大・衛生)
- 111 メンタルヘルスとクオリティ・オブ・ライフ (QOL) に  
 関する予防医学的研究 (第15報)  
 -勤労者のライフスタイルと抑うつ症状との関係-  
 ○丸山総一郎 森本兼曇 (阪大・医・環境医学)
- 112 最近当社で発生した精神障害の原因について  
 ○木村 隆 木村 真次 柴田よし子 石原嘉子  
 田中 信子 (NEC関西・健康管理センター)
- 113 健診有所見者, 長時間勤務者, 長期欠勤者の健康管理  
 ○横田雅之 羽根信五 花畑糸子 宇野喜久子 中原末子  
 吉川文一郎 (川崎重工業兵庫診療所)
- 114 長期休業者に対する健康要保護者管理システムの現状  
 ○稲岡瑞穂 勝山博信 土屋五郎  
 (三菱重工神戸造船所・衛生課)

懇親会 (16:50~18:30)

大学サービス棟 弘済団食堂

会場への交通機関



最寄駅

- 近鉄上本町 (近鉄大阪線) - 八木約25分 (特急)
- 近鉄 鶴橋 (近鉄大阪線) - 八木約30分 (急行)
- 近鉄 京都 - 八木約50分 (特急)
- 約70分 (急行)
- 近鉄 八木 - 八木西口約2分
- J R 大阪 - 叡 傍約70分
- 近鉄アベノ (近鉄南大阪線) - 八木西口約70分
- 近鉄八木駅から徒歩15分
- 奈良交通バスのりばから乗車約7分医大病院前下車
- 近鉄八木西口駅 (急行停車) から徒歩8分
- J R 叡傍駅より徒歩10分

認定産業医および認定産業医をめざす方へ

本会のシンポジウムは、日本医師会認定産業医制度における生涯研修 (専門) 2単位、基礎研修 (後期) 2単位が認められます。産業医研修手帳 (日本医師会発行) をご持参ください。

# 研究会記録

## 第8回職業性腫瘍研究会

森永謙二 (大阪府立成人病センター)

第8回職業性腫瘍研究会は「ディーゼル排出ガスの発ガン性」をテーマに、6月12日(土)午後3時から大阪府立成人病センター研究所で開催されました。中村清一先生(大阪府立公衆衛生研究所)の司会のもと、まずはじめに瓦家敏男先生(大阪市立環境科学研究所)から、ディーゼル機関の燃焼室の解説や、排ガス中の多環芳香族炭化水素(PAH)の分析方法の紹介、また実際の測定場面をスライドで紹介していただきました。次に、黒田孝一先生(大阪府立公衆衛生研究所)から、PAH、ことにベンゾ(a)ピレンの発ガン性、遺伝毒性、変異原性についてのこれまでの知見をわかりやすく解説していただき、最後に、森永(大阪府立成人病センター)がディーゼル排ガス曝露者を対象とした欧米の疫学調査の成績を紹介した。参加者は15名ほどでしたが、質疑応答もなごやかな雰囲気のもとに行われ、ひとつのテーマについて、測定・実験・疫学の各方面からまとまった話が聞けたことは、有意義であったと思います。

## 平成5年度 第1回産業看護研究会

7月5日(土)13時から16時までJR安倍野荘で実施し、参加者:35名でテーマは下記の通りでした。

テーマ1) 講演『肝疾患の最新情報-C型肝炎を中心に』  
 講師:房本英之先生 大阪大学第2内科助教授

肝炎ウィルスは現在5種類確認されており、各々の鑑別診断も可能である。C型肝炎ウィルスに関してHCV抗体が陽性であれば、C型肝炎ウィルスの感染状態を示唆しているが、HCV抗体は長期間陽性を持続する為急性肝炎か慢性肝炎かを区別することは困難である。

経時的にHCV-RNAを測定し、HCV-RNAが消失すれば急性肝炎といえる。慢性肝炎、肝硬変、肝癌では持続的に陽性である。C型肝炎に罹患すると生体は自然にウィルスを排除することは困難で高頻度に慢性化し、15~20年で肝硬変、20~30年で肝癌が発生すると言われている。

C型慢性肝炎の根治療法として抗ウィルス剤のインターフェロンが用いられている。房本先生の教室の成績では約1/3が完全に肝機能が正常化しウィルスも陰転化する群、約1/3がインターフェロン使用中は有効であるが中止後再

燃する群、残りの1/3が全く効果がみられない群と大きく3群に分けられる。その原因は明らかでないが、ウィルス量、ウィルスの亜型の種類、感染期間、年齢などが影響しているようである。

ウィルス量が少ないほど、感染期間が短いほど、若年者ほど有効であるようだ。ウィルスの亜型のII型は、日本人の7~8割を占めるが、他のタイプと比べて効きめがよくないと思われる。

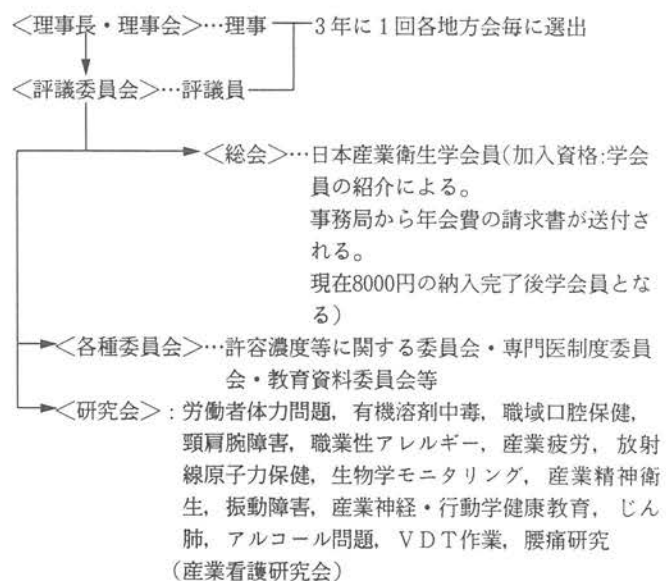
インターフェロンは、発熱、脱毛など他にもうつ状態、間質性肺炎など重い副作用もあり、医学的、社会学的本人の希望などで適応を決めている。今後インターフェロンの有効率の向上を目指して種々検討されている現状である。

以上、先生の講演後職場での問題点など質問が予定時間も過ぎるほど活発に行われた。

テーマ2)『産業看護部会活動-現状報告』が研究会世話人岡田並びに産業看護部会幹事上田から報告された。

先ず、近畿地方会では準会員制度が設けられてきたが平成6年4月1日以降準会員制度を廃止されることもあって学会員としての認諾のために、「日本産業衛生学会の組織」と「産業看護研究会(全国集会)」の位置づけについて、

「日本産業衛生学会の組織」



また、産業看護部会の誕生により発展解消となった産業看護研究会の活動、歴史や部会の活動経過について説明が行われた。第3回産業看護全国協議会が来る10月19日東京で産業医部会と合同で開催される。

昨年(H4.10.27)第2回産業医・産業看護全国協議会に於いて、島理事長から『産業看護部会の設定にい

たる経緯と、これからの部会活動として今何が求められているか、これから成すべき活動を産業看護部会員みんなの意志と力を結集して目的達成のため前進するように』とご教訓を得た。近畿地方会に於いても堀口地方会長より部会の発足を促進するようにとのご教示もあり、これからの部会としての責任ある運営・活動について参加者と意見交換を行い改めて認識されたことと思う。詳細は追って産業看護部会の状況を掲載したいと考える。

## 研究会活動など

### 労働衛生関連法制度検討委員会報告

大阪府立公衛研 平田 衛

昨年4月、原 一郎先生の後を承けて産業衛生学会労働衛生関連法制度検討委員を仰せつかりました。第1回の会合(1992年7月)は母の葬式とぶつかり、欠席せざるを得ませんでした。以後4回の委員会およびILO条約勉強会に出席しました。この委員会の考え方、検討中の課題などを簡単に報告させていただきます。

考え方としては、学術を基本とする学会の委員会の仕事は、法制度上の問題を後追いではなく、学問的な成果や国際動向を参考にして、先取りの提案をすることである、と言ってよいでしょう。

主な検討事項は次の通りです。①労働衛生関連ILO条約の情報提供(前期委員会からの引継事項):職業上の安全衛生・作業環境(155号条約と164号勧告)、職業衛生機関(161号条約と171号勧告)、石綿(162号条約と172号勧告)、化学物質の安全(170号条約と177号勧告)の四つを取り上げ、1泊勉強会で理解を深め、産業医学に載せる方法を検討している。なお、委員にはILOジャーナルが送られていますので、ご覧になりたい方は御相談ください。②中小企業における産業保健サービスの改善:産衛学会中小企業衛生問題研究会での議論の経過を説明した。産業保健センターや他の課題との関連から、当面棚上げとなっている。③府県および地域産業保健センター(近畿では兵庫県、および各府県1箇所):わからないことが多いので情報収集を要するが、産衛学会と関わりがあり、積極的な運用と充実を提言すべきという意見が出た。④産業看護職の法的な位置づけについて、看護部会長の前田和子先生から提起があったが、時期尚早という雰囲気だったものの、産業医学に載せる方向が提起された。

何もしないうちに任期が終わりそうで不安ですが、中堅層が増え、大いに若返ったので、忙しいけれども引き

受けて進めないことには時間の無駄になりそうな気がしています。また、こういう課題に取り組んで欲しい、こんな問題についての考え方を聞きたいといった学会員皆様の様々な声が委員会を活発にし、期待に応える力を持たせたいと思います。御意見、問題提起、叱咤等々、賜りたく存じます。

### 「第2回環境と職域保健アジア・パシフィック・シンポジウム」を終えて

神戸大学医学部公衆衛生学教室 住野公昭

さる7月22-24日の3日間、神戸国際会議場において表記のシンポジウムが神戸大学医学部附属医学研究国際交流センター(ICMR)とシンガポール大学との主催および日本学術振興会の後援で開催された。

本学のICMRは1979年に発足して今年で14年になり、インドネシア、フィリピン、タイ、シンガポールの4か国との間で、基礎・臨床医学の諸領域にわたり研究交流・人物交流を実施してきた。公衆衛生学分野では、1983年以降、環境と職域における毒性学をテーマに交流の実績をあげてきており、この間、研究者受入れに近畿産衛の会員をはじめ各大学の先生方の協力を得てきた。

第1回環境と職業中毒学に関するアジア・パシフィック・シンポジウムを1987年シンガポールで開催し、200名以上の研究者が集い、活発な議論が行われた。今回のシンポジウムのテーマは、化学物質の人体影響として登録を募り、14か国から外国人48名を含む150名以上の環境汚染や職業病の研究者が参加した。

「職域保健と環境保全のための産業発展」(産医大小泉学長)、「環境物質によるチトクロームP-450の誘導機構」(スウェーデン、グスタフソン)、「神経系に影響を与える食品成分」(アメリカ、スペンサー)の3題の基調講演と、招待者講演3題、「生物指標」「癌原性物質」「環境汚染」の3題のシンポジウム、ポスターを含む45題の一般発表があった。アセアン各国からも数題の環境汚染や職業性疾患らしき発表もあり、内容はいずれ発刊されるプロシーディングスをご覧頂くとして、大きくないサイズで和やかな議論が交わされたと思っている。

アセアンから20名、中国と韓国からも10名とアジアからの出席があり、シンポジウム名を何とか保てたことにほっとしている。研究のレベルは一様でなくても、この種の交流を継続させる必要性も感じた。

次回は未定であるが、1999年頃、シンガポールでどうかなという話になった。

### 秋の研究会等のお知らせ

#### 第22回 日本産業衛生学会職業性アレルギー研究会

世話人 森本兼囊 (阪大医学部環境医学)

日時: 10月26日 午後1時~5時30分

場所: 大阪千里阪急ホテル (地下鉄御堂筋線千里中央駅より徒歩5分)

特別講演 北村幸彦 (阪大医学部病理学)

「マスト細胞と好塩基球の分化制御」

シンポジウム「アレルギー反応-機構と意味-」

座長 島 正吾 (藤田保健衛生大医学部公衆衛生学)

西村泰治 (熊大医学部免疫制御学)

「HLA分子による抗原ペプチドの提示」

白川太郎 (阪大医学部環境医学・オックスフォード大)

「アレルギー反応におけるライフスタイルと遺伝素因」

田中健一 (京都工場保健会研究部)

「TDIアレルギーへのアプローチと今後の展望」

大前和幸 (慶大医学部衛生公衆衛生学)

「イソシアネート曝露作業の健康影響」

一般演題も募集します

連絡先: ☎565 吹田市山田丘2-2

大阪大学医学部環境医学教室

TEL 06-879-3922 FAX 06-879-3923 竹下宛

#### ★第22回有機溶剤中毒研究会

平成5年10月29~30日

世話人: 信州大学医学部衛生学教室 村山忍三

開催場所: 諏訪湖ハイッ

長野県岡谷市南宮東10019

TEL 0266-22-5535

事務局: 信州大学医学部衛生学教室 那須民江

TEL 0263-35-4600

#### ★第11回生物学的モニタリング研究会

平成5年11月5~6日

世話人: 川崎医療福祉大学 緒方正名

開催場所: 岡山厚生年金休暇センター

岡山県総社市秦1215

TEL 08669-5-8811

事務局: 川崎医療福祉大学 田口豊郁

TEL 086-462-1111

#### ★第6回国際砒素シンポジウム

平成5年11月13~14日

世話人: 聖マリアンナ医大公衆衛生学教室

山村行夫

開催場所: かながわサイエンスパーク・ホテルKSP

川崎市高津区坂戸3-2-1

TEL 044-819-2222

事務局: 聖マリアンナ医大公衆衛生学教室

高橋啓子

TEL 044-977-8111

#### ★第33回日本労働衛生工学会

平成5年11月18~19日

世話人: 松下産業衛生科学センター 内藤勝巳

開催場所: 大阪YMCA会館

大阪市西区土佐堀1-5-6

TEL 06-441-0893

事務局: 松下産業衛生科学センター 環境衛生部

浜浦弘巳

TEL 06-906-1631

#### 関連学会、研究会の開催予定

学会および研究会/開催日/事務局および連絡先等

#### ★第3回産業医・産業看護全国協議会

平成5年10月19日

開催場所: 東京簡易保険会館 (ゆうぼうとホール)

東京都品川区西五反田8-4-13

TEL 03-3490-5111

事務局: ヒューマン・リサーチ

TEL 03-3496-0091

#### ★平成5年度全国安全衛生大会

平成5年10月20~22日

開催場所: 横浜アリーナ パシフィコ横浜会議センター

横浜市教育会館等

#### 平成5年度 第2回幹事会記録

日時: 平成5年7月30日 13:30~16:30

場所: JR大阪クラブ

出席者: 堀口, 圓藤, 近藤, 宮上, 河合, 小泉, 中野原田, 上田

欠席者: 藤木, 徳永, 武田, 埴田, 岡田, 樹屋

## I. 報 告

## 1. 平成5年第1回理事会報告

平成5年6月5日(土)に開催された理事会の報告を圓藤理事が行った。

- (1) 第66回日本産業衛生学会について  
高田企画運営委員長から、まとめ次第詳細な報告をする旨の報告があった。
- (2) 第3回産業医・産業看護全国協議会について  
10月19日東京五反田『ゆうぼうとホール』で開催の予定
- (3) 第67回日本産業衛生学会について  
来年3月21日から24日岡山で開催準備中であるとの報告があった。
- (4) 第4回産業医・産業看護全国協議会について  
来年名古屋で開催されることが決められたが、具体的な準備はこれからであるとの旨の報告があった。
- (5) 専門医制度について  
経過措置による『指導医』の有資格と認定したものは258名、このうち240名が指導医の登録を済ませた(6月3日現在)。研修手帳を26名に交付した(6月5日現在)。
- (6) その他
  - ① 日本学術会議に学術団体として許可を得るための書類を提出した。
  - ② 日本医師会認定産業医講習会、ME学会・技術講習会の開催について共催の申し入れがあった。以前から共催しているので理事長の許可をえて承諾通知を送った。
  - ③ 職域口腔保健研究会へ総会で承認された旨を連絡した。
  - ④ 会員名簿の発行について(今年度は発行年度に当たるので)
  - ⑤ 外国から機関誌『産業医学』の購入希望があった場合、買値を10,000円/年とする。
  - ⑥ 機関誌『産業医学』を海外に無料で寄贈している件について検討する。  
本当に必要としているか否かの調査を行い整理を行う。
  - ⑦ 外国から機関誌『産業医学』へ投稿する場合の投稿規定の緩和と別刷り50部までの無料配布を検討する。
  - ⑧ 『許容濃度等の提案理由集』を発行する方向で検討する。
  - ⑨ 部会活動の活性化
  - ⑩ 地方会長会議を理事会の前に開催することが決まった。

- ⑪ 会費の自動振込についての提案を検討する。
- ⑫ 学会認定制協議会の委員の任期について。
- ⑬ 地方会理事数についての提案がなされ懸案事項となった。
- ⑭ 『産業医学 学会号』の発行に関する諸事項について関係委員および理事が成案を得よう検討することとした。

## 2. 平成5年第1回理事会報告に対する討議

名簿を発行するのであれば

- (1) 産業衛生学会の本部、地方会の連絡先、各種研究会の代表者等の記載があれば便利であるとの追加発言なされた。(近藤幹事)  
圓藤理事から近畿地方会の意見として、次の本部理事会に報告する旨の意見が述べられた。
- (2) 『産業医学』への投稿規定の緩和について  
外国の学術雑誌は投稿規定が緩やかなので『産業医学』も緩和の方向で検討していただきたい。特に投稿が会員のみに限られていることや投稿費用も含めて検討していただきたい(近藤幹事)。  
圓藤理事から本部理事会で引き続き検討を行っているとの意見が述べられた。

## 3. 第33回近畿産業衛生学会の準備状況の報告が近藤幹事よりあった。

## 4. 第1回産業看護研究会報告が上田幹事よりあった。

## 5. 第2回産業医・産業看護全国協議会(学会長 藤木幸雄)について最終の会計報告が南事務局員からなされた。

## 6. 産業看護研究会の委員の変更

前田和子部会長から

- \* 植本寿満枝(関西テレビ)から中島美絵子(富士通テン)へ
- \* 志岐初子(府立勤労者健康サービスセンター)と上田美代子(近畿健康管理センター)がそれぞれ再選された旨の報告があった。

## II. 議 事

## 1. 地方会会則の改正案

地方会会則の改正案が総務担当藤木幹事欠席のため宮上幹事より示され、現行の地方会会則は不備な点が多く問題であるとの報告がなされ、変更点と趣旨説明があり各幹事から活発な意見が交わされた。

幹事会で作成した地方会会則(案)を奈良の学会時に

開催される評議員会に計り、来年度の総会で決定する予定で改正作業を進めることで意見が一致した。

#### 2. 労働衛生史研究会（10月2日開催予定）への援助について

原 一郎先生から協力をさせていただきたいとのお願いがあった。

地方会として協力をする旨の意見が地方会会長から述べられ承認された。

#### 3. 第34回近畿産業衛生学会の開催場所について 第33回の奈良学会の時に次回開催場所を決める。

#### 4. 名誉会長について

長年日本産業衛生学会近畿地方会の会長をされていた三浦前会長に、名誉会長の称号（推薦状）と記念品を第33回近畿産業衛生学会（奈良）で贈呈することが決議された。

#### 5. 事務局からの確認

総会時に当日会員で参加したいとの希望があった。

今後は当日会員で、参加費1000円で聴講のみを認めるとの決議がなされた。

#### 6. 準会員に送付する通達について

来年度廃止される旨を準会員に文書で連絡することにした。（9月末日に送付する）。



（铸造作業場風景）

### 事務局からのお願い

地方会費の振込について

- (1) 個人名でお願い致します。
- (2) 住所や姓名の変更があった場合は、速やかに学会本部（東京）と地方会事務局まで文章でご連絡下さい。

地方会研究会の記録も本ニュースで掲載しています。地方会研究会の世話人の方は、研究会開催後は、すみやかに各発表者の抄録をとりまとめて研究会の記録（1行25字の形式で、1演題800字前後）をご送付下さるようお願いいたします。

ニュースの話題欄は、会員間の情報や意見交換の場としたいという願いから設けられたものです。皆様方の投稿をお願い致します。（記：近藤）

### 編集後記

本号は近畿産業衛生学会のプログラムを掲載いたしました。従来、プログラムは独自に作成していましたが、地方会の機関誌に準ずる本ニュースに掲載することで、地方会の公式な記録として残すことになりました。また、

編集・企画担当者

（広報担当幹事・事務局員）

武田真太郎、上田美代子、近藤雄二、河合俊夫

宮上浩史、中野碩夫、南 勉、大原昭男

次回発行日 1994年1月1日

次号原稿締切日 1993年11月15日